



日本取締役協会 YEAR 2008

総会・幹事会	2
委員会・研究会活動概要	3
フォーラム・セミナー	17
研修講座	19
協会外へのPR活動	19

総会・幹事会

★2008 年度 会員総会が開催されました。



2008年5月13日(火)16時00分より第6回定時社員(会員)総会が、帝国ホテルで開催されました。最初に宮内義彦会長(オリックス会長)から、会長所信表明および事業・決算報告、予算案について報告が行われ、続いて、ご出席の委員長、新任の副会長のみなさまから、今年度の活動予定についてご発表いただきました。



また、本年度の特別講演は、中川 秀直 衆議院議員に「経済成長と構造改革——その延長線上にある企業経営」というテーマで、日本経済を発展させるための施策について、政治家の立場からお話をうかがいました。



恒例の懇親会では、乾杯のご発声を池田弘一 アサヒビール 代表取締役会長兼CEOに頂戴し、おいしいワインとシャンパンをご出席のみなさまに楽しんでいただきました。

幹事会

4月17日(木)、9月22日(月)開催。

委員会・研究会活動概要

企業倫理委員会

委員長： 弦間 明 (資生堂 相談役)

共同委員長：荒蒔 康一郎 (キリンホールディングス 相談役)

副委員長： 小林 俊治 (早稲田大学商学部 教授)

副委員長： 松山 遙 (日比谷パーク法律事務所 パートナー弁護士)

環境に関する企業の役割と責任について

企業レベルでの、より質の高い環境への取り組みを

本年度の企業倫理委員会は、「環境に関する企業の役割と責任」というテーマで活動いたします。

企業が社会の公器として存在し続けるためには、「企業活動が環境負荷などのマイナスよりも経済的なプラスのほうが大きければよい」というようなレベルでは済まされなくなってきております。企業活動が環境に及ぼすマイナスをなくすためのアクションを直ちに起こす必要があるのは当然ですが、更に当委員会では、“企業活動が環境にプラスとなる持続的な社会を創造する”，という理念を目指してビジョンを組み立てたいと考えております。

日本企業が環境保全に貢献することは企業倫理上の大きな課題であります。またそれだけではなく、世界に先駆けて環境問題に対応した、ソリューション型の製品開発や技術・ノウハウを、いままで以上に、より高いレベルに、創造することで、日本企業は再び世界的アドバンテージを示すことが出来るものと考えております。

一般的に、環境問題は、一つの問題解決を発見すると、そのことによって別の環境負荷が生じるといった矛盾が生まれることもありますが、そのプロセスは、理想と現実をバランスさせるという企業経営の大命題にも共通するものであります。現代社会において、企業経営と企業倫理の観点から、また、世界の潮流の視点からも、六方よしの一つである「環境的役割と責任」の問題に日本企業が取り組むことには大きな意義があるものと考えます。

ハイブリッドカーや太陽光発電など、日本企業はすでに、各々の事業領域におけるソリューションとしての環境対応に関しては、めざましい成果をあげており、世界をリードしております。しかし、永続的に地球環境に貢献するためには、企業ごとの活動と同時に、個別の活動を企業間でリンクさせ、グローバルレベルの全体戦略の中に位置づけるグランドデザインが必要であります。

当委員会では、2008年度の活動として、各企業の環境への取り組みについての理解を深め、それを通して企業レベルでの、より質の高い環境への取り組みを推奨したいと考えております。

日本取締役協会の会員企業の皆様方には、何卒ご理解とご協力をたまわりたいと存じます。

2008/06/06 第28回

[講師] 徳川恒孝 日本郵船顧問 (財)徳川記念財団理事長 (財)WWF ジャパン会長

[テーマ] 江戸から考える環境問題◇エコロジーの原点は「平和」◇江戸の人々の哲学と生活◇現在 私たちが直面する問題◇私たちに何が出来るか◇経済力・軍事力の世界から 文化力の世界へ

2008/08/27 第29回

[ごあいさつ] 高橋祐二 三浦工業 社長 [講師] 越智康夫 三浦工業 取締役技術本部長

[テーマ] 環境に貢献する熱水環境の商品サービス経営◇省エネ(低炭素排出)・低環境負荷型ボイラシステムのトップランナーまでの歩みと新たな挑戦◇ボイラ水処理の業界分担への挑戦とゼロケミ水処理の成立◇ダイオキシン事業への取り組み

2008/10/14 第30回

[講師] 中谷常二 東北公益文科大学大学院 公益学研究科 准教授

[テーマ] 地球環境問題を環境倫理の視点から読み解く◇応用倫理学の姿勢◇倫理学の基本ツール:義務論・功利主義◇世代間倫理◇

2008/12/18 第31回

[講師] 澁谷隆 富士ゼロックスCSR部部長

[テーマ] 富士ゼロックスのCSR◇CSRをどう考えるか

2009/01/27 第32回

[講師] 高見幸子 国際NGO ナチュラル・ステップ・ジャパン 代表

[テーマ] 持続可能な社会の構築のために企業ができること◇国際NGO◇科学的アプローチ◇ナチュラル・ステップ・フレームワーク◇戦略アドバイス & 研修◇リーダーシップ・模判例

2009/02/24 第33回

[講師] 谷達雄 リコー 理事 技師長 社会環境本部長

[テーマ] リコーグループの環境経営◇リコーグループの環境保全活動の歩み◇企業活動とゼロエミッション◇今後の方向性

エマージングカンパニー委員会

委員長： 出井 伸之（クオンタムリープ 代表取締役）

副委員長：加藤 隆哉（CSKホールディングス 執行役員/CSK-IS 取締役副社長）

主査： 今野 由梨（ダイヤル・サービス 社長）

2008/05/08 第16回

[講師]太田洋（西村あさひ法律事務所 パートナー弁護士）

[テーマ]経営者のためのエクイティ・ファイナンスの新技术～「良い」MSCB/優先株と「悪い」MSCB/優先株など～◇「良い」MSCBと「悪い」MSCBの見分け方◇その他の近時の新しいファイナンス手法◇子会社処理のスキームについての新たなスキーム

2008/06/03 第17回

[講師]阿部直彦（タワーズペリン 駐日代表）

[テーマ]経営戦略としての役員報酬ー内外のベンチャー企業の事例から◇CEO/エグゼクティブの役員報酬、欧米・日本企業、IPO前後、上場企業の現状

2008/08/21 第18回

[講師]静正樹 東京証券取引所グループ 執行役

[テーマ]ロンドン証券取引所 AIM の概要と日本版 AIM の目的◇日本の既存市場と英国AIMの相違点◇日本版AIMの創設

2008/10/03 第19回

[講師]中村直人 中村・角田・松本法律事務所 パートナー・弁護士

[テーマ]エマージング企業がM&Aで失敗するケース・成功するケース(仮)

2008/11/10 第20回

[講師]神谷秀樹 ロバーツミタニ LLC 創業者マネージング ディレクター

[テーマ]エマージングカンパニーのグローバル戦略ー会社も人も倫理的たるべし

2008/12/12 第21回

[講師]八尋俊英 経済産業省商務情報政策局 情報処理振興課長

[テーマ]我が国の情報関連政策について

イノベーション・マネジメント委員会

委員長： 原 良也（大和証券グループ本社 最高顧問）

副委員長：竹内 弘高（一橋大学大学院国際企業戦略研究科長 教授）

イノベーションが根源となって生まれる競争力と、コーポレート・ガバナンスの関係を定量化・指標化

コーポレート・ガバナンスとは、「企業の繁栄」を達成するために、「説明責任(アカウンタビリティ)」を果たすことである、といわれます。これまで「説明責任」ばかりが強調されてきた結果、コーポレート・ガバナンスとは経営者を監視・監督する機能、経営者の暴走を防ぐ仕組み、という面ばかりが目立っている気がします。

一方で経済のグローバル化の中で、企業が競争力を高め繁栄するには、商品・サービスにおけるイノベーションが不可欠であることは論を待たないと思います。そこで、当委員会は、イノベーションを促進する経営とはいかなるものか、そしてそうした経営を支えるコーポレート・ガバナンスがいかなるものであるかを追求したいと考えております。

これまでの委員会活動では、イノベーションにより高い競争力を持つ企業の事例について、当該企業の経営者や一橋大学大学院企業戦略研究科の研究者の方々から報告をいただき、議論してまいりました。

2007年度においては、トヨタ自動車、ベネッセコーポレーション、カイハラ、住友3Mといったイノベーター的な企業の事例の他、地方都市におけるプロサッカーチームの運営を成功させたアルビレックス新潟の事例についても報告をいただいております。

これらの報告及び議論により、イノベーションと競争力のリンケージを実感する一方で、イノベーションを促進し、競争力を高める経営のあり方については、引き続き、さまざまな角度から模索していきたいと考えております。

2008年度には、事例報告を通じた議論に加え、一橋大学大学院国際企業戦略研究科の研究成果を参考に、イノベーションが根源となって生まれる競争力とコーポレート・ガバナンスの関係を、「株主・投資家への貢献」「社会への貢献」という視点から定量化・指標化することを試みたいと考えております。

2008/06/10 第12回

[講師]竹内弘高 副委員長 / 岡本ゲーリー氏

[テーマ]ポーター賞企業に見るイノベーションの特徴——ROICの戦略的活用法◇研究の概要～企業の実力を測る指標、日本の製造業・サービス業を対象にした調査◇調査結果～各指標値の業界平均と業界間比較、個別企業と業界平均の比較、株価との関係、コーポレート・ガバナンス

2008/10/09 第13回

[講師]松井忠三 良品計画会長

[テーマ]良品計画のイノベーション◇主な顧客増◇コンセプト視覚化年度経営実績◇経営の変革

2008/11/04 第14回

[講師]曾我栄一 マルホ常務取締役

[テーマ]マルホのイノベーション・マネジメント◇戦略のオリジン◇何をよりどころにして新しい戦略を考えたか◇長期ビジョン◇コーポレートシンボル◇何に気をつけたか、何を大事だと思って行動したか。

2009/01/26 第15回

[講師]村田育生 ガリバーインターナショナル 専務取締役

[テーマ]ガリバーインターナショナルの事業と経営のイノベーション◇ビジネスモデル◇会社始まって以来の危機、第二の創業が求められている◇進化のライフサイクル◇戦略の見直し

2009/02/27 第16回

[講師]堀場厚 株式会社堀場製作所 代表取締役会長兼社長

[テーマ]継続こそイノベーションのエネルギー◇人材採用◇協力会社◇研修◇業務改善◇海外派遣

企業経営と会計委員会

委員長： 新美 春之（昭和シェル石油 会長）

副委員長：奥山 章雄（公認会計士）

2008/04/15 第 8 回

[講師]八木良樹 日立製作所 取締役、日立キャピタル会長

[テーマ]経営者から見た国際会計基準について—今後のわが国会計基準のあり方の視点から—◇先行する欧州の状況◇わが国会計基準のあり方に関する検討について◇産業界の意見◇現時点でのわが国会計基準の同等性評価について◇企業経営に大きな影響を与えるコンバージェンス審議項目について◇

2008/05/21 第 9 回

[講師]金子昌資 信越化学工業 取締役

[テーマ]経営者から見た会計問題

2008/07/30 第 10 回

[講師]山下公央 カブドットコム証券 取締役会長

[テーマ]会計とガバナンス◇ガバナンス体制◇時価会計と経営

2008/09/12 第 11 回

[講師]斉藤 惇 株式会社 東京証券取引所グループ 取締役兼代表執行役社長

[テーマ]証券市場と会計基準◇IFRSに関する米欧日の動向・採用状況◇XBRLの概要◇四半期決算短信の概要

2008/10/21 第 12 回

[講師]吉高信 ファーストリテイリング 執行役員 グループ CFO

[テーマ]CFO から見た会計とその課題◇外資における会計◇ファーストリテイリングにおける会計◇会計についての現状認識と今後の課題

2008/12/17 第 13 回

[講師]新井純 昭和シェル石油社長

[テーマ]企業経営と会計◇国際会計基準が意味するもの◇日本版 SOX 導入にあたって

2009/02/10 第 14 回

[講師]逆瀬重郎 企業会計基準委員会 副委員長

[テーマ]会計基準の国際的展望とASBJの取り組み◇コンバージェンスの動向◇ASBJ の取り組み◇IFRS の制度化の動向◇金融危機対応(ASBJ の取り組み)

金融資本市場委員会

委員長： 池尾和人（慶應義塾大学経済学部教授）

共同委員長： 上村達男（早稲田大学法学学術院長・法学部長）

副委員長： 川本裕子（早稲田大学大学院ファイナンス研究科 教授）

高質な金融資本市場の確立を目指し、「日本版プリンシプル」の策定を準備

本委員会は、わが国の金融資本市場をグローバルなスタンダードからみても透明かつ公正で品位あるものにし、たいという意図のもとに、2007 年度に設置されました。2008 年度も引き続き本委員会は、わが国の金融資本市場を、品位ある成熟した市民社会を基本とした、責任あるプロフェッショナルが支えあう市場とすべく活動していく所存です。

そうした高質な金融資本市場の確立を目指す際に学ぶべき先達として、プリンシプル(原則)を共有した市場参加者の自己規律(自主規制)による市場秩序の維持を理念とする英国の金融資本市場のあり方があります。そこで初年度である 2007 年度は、全般的なテーマ討議ののち、「英国に学ぶシリーズ」と題してイギリスの規制当局(FSA)、シティコード、勅許会計士などについて学習してきました。

2008 年度は、さらに進めて、深みのある「日本版プリンシプル」の策定に向けた準備段階と位置付けます。そして、本委員会メンバーの共通認識として、①自主規制、②職業専門家(の責任)、③市民社会、④規制主体、⑤企業価値、の5つのキーワードを念頭に置いていただき、委員会メンバーがわが国の金融資本市場の将来像(ビジョン)とそれを支える経済哲学(フィロソフィー)を共有化することを目指していきたくと思います。そうした理念の共有がプリンシプル策定の不可欠の前提となります。

具体的には、2008 年度は新たに「ヒアリング・シリーズ」として、(1)企業買収、(2)自主規制、(3)規制当局の3つのテーマについて、それぞれの専門家(M&A 専門家、自主規制法人、金融庁など)をお呼びして、日本の現状と課題を検討して行きたいと計画しています(5月、6月、7月開催予定)。その後、日本版プリンシプルの草案を作成して、これを委員会で検討します(9月、およびそれ以降に続く)。

なお、ベースとなる「英国に学ぶシリーズ」についても、適切な講師が見つければ随時開催する予定です。

2008/05/19 第8回

[講師] 土本清幸 東京証券取引所自主規制法人 常任理事

[テーマ] 自主規制法人の課題と方向性◇自主規制法人の設立◇諸外国における証券自主規制の状況◇東証自主規制法人の課題◇四業務の状況と課題(考査、売買審査、上場管理、上場審査)

2008/06/09 第9回

[講師] 中村修 金融庁監督局総務課 監督調査室長

[テーマ] 金融規制の質的向上——ベター・レギュレーションへの取組み◇なぜ今ベター・レギュレーションなのか◇ベター・レギュレーションの骨子◇最近の取組み事例

2008/07/15 第10回

[講師] 渡辺宏之 早稲田大学法学学術院 准教授

[テーマ] 日本版テイクオーバー・パネルの構想◇英国型企業買収規制への注目◇EU企業買収指令・2006年英国会社法とパネルの位置付け◇現状の日本において必要な“企業買収Principle”“企業買収Rule”

[2008年10月より休会]

ディスクロージャー委員会

委員長： 井上雄二（リコーリース 社長）

共同委員長：東 哲郎（東京エレクトロン 会長）

副委員長： 川北 英隆（京都大学大学院経営管理研究部 教授）

株主から注目されるディスクロージャー

資本市場において、企業を取り巻く環境は大きな変貌を遂げています。株主としての投資家の行動が、企業経営に大きな影響を及ぼしている最近のニュースに、目を奪われることが多くなりました。現代は、まさに投資家の時代と言えるかもしれません。本委員会は、このような経営環境の変化の中で、企業が投資家や社会に対してアカウンタビリティを果たすために必要なディスクロージャー制度のあり方、また、より良き経営者報酬のあり方を検討する目的で設立しました。昨年度は、ディスクロージャーに関連する専門家（機関投資家、議決権行使助言会社、IRの専門家、格付機関、会計士、学識者など）を講師としてお招きし、ご参加いただいた会員の皆様と、活発で実践的な意見交換をさせていただきました。

2008年度は「株主から注目されるディスクロージャー」というテーマで活動する予定です。外国人株主、機関株主、個人株主などの株主に着目し、株主に対するより良く、より公平で、より効果的なディスクロージャーを学び、彼らが注目するディスクロージャーを目指したいと思います。具体的には、ソヴリンファンドやヘッジファンド、またガバナンス、環境、CSR、人権などを投資先の選定要因とする投資スタイルにも目を向けます。また、個人投資家の資産を運用するという意味で個人投資家の集合体としての機関株主と、本来の意味での個人株主にも焦点を当ててまいります。また、当委員会の特色の一つである経営者報酬の問題につきましても、引き続き取り組んでまいります。

2年間にわたる委員会活動の成果公表を視野に入れて、日本のディスクロージャーについての新しい視点、グローバルな視点、先進的企業また大型株、中・小型株に分類される企業の視点とその課題などを探り、より良きディスクロージャーのあり方を提言したいと思います。今年度もより多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

2008/05/14 第8回

[講師] 杉浦秀徳 みずほ証券 経営企画G経営調査室 上級研究員、

[テーマ] 株主還元～配当と自社株買い

[講師] 砂川伸幸 神戸大学大学院 経営学研究科 教授

[テーマ] 企業の現金保有とペイアウト：最近の学術研究とその活用

2008/07/29 第9回

[講師] 出井伸之 クオンタムリープ 代表取締役& 鈴木 裕 大和総研 経営戦略研究所主任研究員

[テーマ] ソヴリンファンドの実態と対応◇SWFの概要・各プロフィール◇今後の予想・懸念・動向◇日本における外資規制

2008/09/18 第10回

[講師] 若林秀樹 フィノウェイブインベストメンツ社長

[テーマ] ヘッジファンド、アナリストの視点◇ヘッジファンドの特性、長所短所、なぜ今必要とされるのか◇アナリストの投資判断◇アナリストを巡る環境変化

2008/11/11 第 11 回

[講師]ジョン・カーニー／ TowersPerrin 経営者報酬欧州統括プリンシパル、阿部直彦／ TowersPerrin 駐日代表

[テーマ]英国・欧州における経営者報酬の歴史・動向と展望◇欧州における現状◇これまでの歴史◇欧州における規制◇課題◇今後の動向

2009/01/16 第 12 回

[講師]野村嘉浩 野村証券金融経済研究所 投資調査部制度調査課長

[テーマ]時価会計の動向◇世界各国でIFRSが浸透◇日本の対応◇金融危機対応◇米国SEC報告書◇日本における公正価値会計の論点整理◇包括利益開示の重み

2009/02/18 第 13 回

[講師]米山徹幸 大和インベスター・リレーションズ 取締役・海外 IR 部長

[テーマ]企業 IR サイトの最新潮流◇日本企業の IR サイト、概況◇2008 年ベスト企業賞◇IR サイトの最小常識を知る◇ウェブ 2.0 時代の IR サイト◇水準を超す IR サイトのポイント

2009/03/27 第 14 回

[講師]斉藤惇 東京証券取引所グループ社長

[テーマ]コーポレートガバナンスとディスクロージャー◇公平な市場取引を行い、株主に歓迎されるディスクロージャーとはどうあるべきか◇説明責任の強化は具体的にどう行うか◇日本固有の課題

中堅・ファミリー企業委員会

委員長： 井口武雄（三井住友海上火災保険 シニアアドバイザー）

共同委員長：小野 俊夫（日さく 社長）

副委員長： 穴戸 善一（成蹊大学法科大学院 教授）

わが国経済の活力の源泉となっている、中堅企業、ファミリー企業の良さ・強さに学ぶ

中堅・ファミリー企業委員会は、昨年度創設され、新たに活動を開始した委員会です。これまでは、上場企業、大企業を中心としたテーマを取り上げる委員会が多かったように思いますが、わが国経済の活力の源泉となっている中堅企業、ファミリー企業の良さ・強さに学ぶことも多いのではないかと考えて創設されました。

今日までの委員会では、「めまぐるしく変化する時代に柔軟に対応しながら大胆・迅速に事業領域を変化させてこられた会社」、「社員を大切にしている経営を行いその結果として半世紀近くの間増収増益を継続されてきた会社」、「特定の市場においてリーディングカンパニーとしての地位を確保してこられた会社」、「300年以上の伝統を誇る会社」、「おもてなしの心を大切にし発展を遂げられた会社」、等々、さまざまな特徴をもつ会社の経営者の方々からお話を伺ってきました。それぞれの経営者の方々が会社のあり方について常に真剣に考え、時には大胆に決断し、時には粘り強く取り組み、またさまざまな危機を乗り越えてこられたご経験などの大変含蓄のあるお話に毎回感服し、また驚きを感じております。

また、コーポレート・ガバナンスやコンプライアンスが叫ばれるずっと前から家訓・創業者の遺訓等に従って、見事にコーポレート・ガバナンス、コンプライアンスを実践しておられることに、各会社の先達の卓見の凄さを知りました。

今後も、長い歴史を持つ会社、特定の製品・サービス分野で世界的に高い評価を得ている会社など、高い経営品質を維持し、活力あふれる事業活動を展開している中堅企業、ファミリー企業の経営者の方々を講師としてお招きし、それぞれの経営の良さを語っていただき、その強さの秘訣を学んでいきたいと考えています。中堅企業、ファミリー企業のみならず、上場企業、大企業の経営においても、必ず参考となる有意義なお話を聞くことが期待できますので、多くの会員の参加をお待ちしています。

2008/04/28 第9回

[講師]吉田允昭 レコフ 代表 [テーマ]日本のM&Aの真髄とは

2008/05/22 第10回

[講師]矢崎裕彦 矢崎総業 会長 [テーマ]私の経営理念～世界と共にある企業、社会から必要とされる企業を目指して

2008/07/10 第11回

[講師]法善五郎 法善 第46代当主 [テーマ]世界最古の宿『法善』の歴史と伝統～法師のなまぐさ法話

2008/09/16 第12回

[講師]水野正人 ミズノ会長 [テーマ]ミズノ100年の歴史～受け継がれていく情熱の記憶

2008/10/15 第13回

[講師]永谷栄一郎 永谷園会長 [テーマ]永谷園～味ひとすじの経営～

2008/11/20 第14回

[講師]今野由梨 ダイヤル・サービス社長 [テーマ]ダイヤル・サービス40年の足跡と明日への展望～ベン

チャーは変革の力

2008/12/09 第15回

[講師]鈴木與平 鈴与社長 [テーマ]鈴与グループ 共生の精神とともに 200年

2009/01/09 第16回

意見交換 懇親会

2009/02/09 第17回

[講師]出原群三 自重堂会長 [テーマ]自重堂～アパレル経営の哲学

M&A委員会

委員長： 江原 伸好（ユニゾン・キャピタル 代表取締役パートナー）

共同委員長： 落合 誠一（中央大学法科大学院 教授）

共同委員長： 富山 和彦（経営共創基盤 代表取締役 CEO）

経営陣・取締役の M&A への理解を高めることが急務

M&A 委員会は本年度より新しく発足した委員会です。今日の経営において M&A は、ビジネス戦略上有効な手段として認知されるようになってきました。一方で日本における M&A の歴史は日が浅く、欧米諸国に比べ経験と手法の蓄積が少ないのが現状です。M&A では企業内でのトップダウン型の判断が必要とされる為、経営陣・取締役の M&A への理解を高めることが急務であり必須です。こうした状況を踏まえ、当委員会では M&A に関する様々なテーマに関して、分析及び議論を行ないたいと思います。

M&A はあくまでも手段に過ぎず、大切なのは買収ないしは合併後のインテグレーション、経営の効率化、戦略の再構築、資源配分等を通じ企業価値を高めることです。過去の事例では、インテグレーションにおいて当初の目的が満たされていないケースが多いのですが、当委員会では M&A 後のインテグレーションの成功事例を検証していきたいと思います。

最近の株式市場では新たな参加者の活動が盛んになってきました。シェアホルダー・アクティビストに代表されるような予期せぬ動きが勃発する可能性も現実的になり、敵対的買収の動きに対する対応・防御策またその正当性など様々な議論がなされています。今後はその法的な枠組みの解釈及び公開企業としてあるべき姿について、考えていく必要があります。また、投資業務専門のプライベート・エクイティファンドや国がスポンサーになっているソブリン・ウェルス・ファンドの動きも顕著になっております。この様な新規市場参加者の着眼点と行動様式にも注目して行くことが必要でしょう。

当委員会は 4 月に開催された設立記念セミナーを皮切りに、7～8 回程度開催していく予定です。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

2008/04/22 第 1 回

安全保障戦略としての M&A——日本経済発展のドライバーとして（工業倶楽部）（セミナー欄参照）

2008/06/12 第 2 回

[講師] 落合誠一 共同委員長

[テーマ] わが国の M&A 法制のあり方について——三角合併に関連して◇M&A 法制の意義◇三角合併問題の諸相◇今後の M&A 法制の動向

2008/07/18 第 3 回

[講師] 富山和彦 共同委員長

[テーマ] グローバル化・知識集約化と M&A ◇M&A における企業価値はどこにあるか◇グローバル化・知識集約化の中で、どうシナジー効果をあげていくか◇コーポレート・ガバナンスの統治モデルは多様化に向かう

2008/09/04 第 4 回

[講師] 江原伸好 委員長

[テーマ] ファンド投資家の活動状況◇M&A 市場に於けるファンド投資家、その発展の背景、特徴◇戦略的バイヤーとの比較◇企業価値向上策、課題

2008/12/15 第5回

[講師] 知識賢治 カネボウ化粧品社長

[テーマ] カネボウ化粧品の買収とその後の経営◇産業再生機構支援下での経営改革の歩み◇ターンアラウンドの要件◇花王傘下での改革◇想い

2009/01/14 第6回

[講師] 古元良治 キリンホールディングス株式会社 常務取締役

[テーマ] キリンの成長戦略◇長期経営構想の策定と概要◇純粋持ち株会社体制の下での成長パターン◇成長戦略を支える戦略◇今後の拡大戦略

内部統制研究会

座長：植松 富司（コニカミノルタホールディングス 特別顧問）

副座長：鳥飼 重和（鳥飼総合法律事務所 代表）

副座長：町田 祥弘（青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科 教授）

会社法・金融商品取引法という、内部統制を規定する2つの法律の関係と対応を検討

近年、企業の不祥事が社会問題化し、それが契機となり、内部統制の法制化がはかられてきました。当協会の会員においても、内部統制に関する関心が飛躍的に高まるとともに、内部統制の整備が喫緊の課題と認識されるようになりました。

内部統制研究会は、委員会等設置会社(当時)の監査委員会監査と内部監査についての実践的な研究を行った「監査研究会」を母体として、テーマを内部統制に絞って検討を進めるために2006年に発足しました。毎回の研究会では、各企業がすでに持っている内部統制の仕組みを再整備し、変化する社会情勢に対応し、各種の法的・社会的要請に応えるような体制構築をどのように行うか、そのシステムを有効なものとするための実践的な手法について議論を重ねてきました。2008年3月には、研究会での議論を踏まえ、少しでも今後の内部統制の整備に資することはできないかと考え、書籍「内部統制の責任と現状」(税務経理協会)を出版しました。

2008年度は、会社法・金融商品取引法という内部統制を規定する2つの法律の関係と対応をテーマとしています。金融商品取引法では、財務報告の信頼性の確保のために課題となる評価項目、監査法人との作業、監査役・監査委員会の役割等、また会社法の要求する全社的な内部統制におけるリスク管理、コンプライアンス、グループ企業の内部統制体制などへの対応も検討していきます。

具体的なテーマを検討する事例発表や、副座長をはじめとする会社法・金融商品取引法の専門家から、制度に関わる最新動向と解説をうかがう予定です。

内部統制と言いますと、企業からはどちらかと言えば受身で、コストや作業量の多さなどのネガティブな声ばかりが聞こえてきますが、当研究会としては、本来は経営者が企業経営の効率化のため、また企業価値向上のために、積極的に活用すべきものではないかと考え、活動して行きたいと思います。

2008/04/24 第20回

[講師] 福井美佐子 昭和シェル石油 内部統制推進部 [テーマ] 事例発表: 会社法対応と内部統制報告制度対応における構築の状況、リスク管理体制、コンプライアンス(法令等遵守)体制について

[講師] 鳥飼重和 副座長 [テーマ] 最近の内部統制について

2008/05/20 第21回

[講師] 落合誠一 中央大学法科大学院教授・東京大学名誉教授

[テーマ] ガバナンスの観点から見た会社法と金融商品取引法の内部統制◇問題の所在◇会社法の内部統制◇金融商品取引法の内部統制

2008/07/24 第22回

[講師] 武井一浩 西村あさひ法律事務所・弁護士パートナー

[テーマ] 内部統制法制への会社役員としての対応◇内部統制整備の留意点◇財務報告内部統制対応(会社法と金商法との接点)

2008/10/09 第23回

[講師]町田祥弘・副座長

[テーマ]内部統制報告制度への対応状況調査結果 解説

2008/11/07 第24回

[講師]持永勇一 新日本有限責任監査法人 代表社員

[テーマ]内部統制報告制度における監査人の対応+α◇経営者評価と監査法人の対応◇内部統制報告制度◇証券マーケットの動向◇企業の変質◇社会コスト(倒産コストの負担)◇不正のトライアングル◇事態改善のために

2008/12/05 第25回

[講師]山口利昭 (山口利昭法律事務所 代表 弁護士)

[テーマ]会社法の下での内部統制整備と、金融商品取引法の下での内部統制報告制度に関して、法的責任という観点から、疑問に思うこと

2009/02/06 第26回

[講師]神林比洋雄 プロティビティジャパン社長

[テーマ]全社的リスクマネジメントで持続的成長を目指す内部統制とERM◇新たなリスクにどう対応するか◇トップダウンによる変化への全社的対応◇内部統制はERMの基盤◇財務報告の内部統制で終わらせない◇内部統制・ERMの品質をモニタリングする

2009/03/13 第27回

[講師] 鳥飼重和・副座長

[テーマ] 最近の事例から◇サブプライム問題から派生する金融危機・経営危機◇資金繰りに窮した親会社の子会社の資金に目をつける◇経営の健全性は経営の効率性に寄与できるのか

フォーラム・セミナー

経済における検討課題や個別テーマを取り上げる会員向けセミナーを適宜実施。

モーニングフォーラム

代 表： 茂木 友三郎（キックマン 会長 CEO）

コメンテーター： 阿部 直彦（タワーズペリン 駐日代表）

コメンテーター： 太田 洋（西村あさひ法律事務所 弁護士パートナー）

コメンテーター： 川本 裕子（早稲田大学大学院 教授）

コメンテーター： 町田 祥弘（青山学院大学大学院 会計プロフェッション研究科教授）

コメンテーター： 松山 遙（日比谷パーク法律事務所 弁護士）

◆ 趣旨

モーニングフォーラムは、朝食にサンドウィッチを頬張りながら、ゲストを囲んで経済を取り巻く環境についての意味のある雑談をともにし、日本と世界の来し方行く末をおもんばかるという趣旨の定例の朝会で、毎回ゲストをお招きして、話題提供をお願いし、その後にメンバーと意見交換をしようというものです。

新しい試みとして、3名の有識者の方にコメンテーターをお願いしています。ゲストとともに、毎回1名のコメンテーターが順番に出席します。

◆ 話題：

1) 時事的テーマ、2) 自社の経営とガバナンス、3) 日本のものづくりやサービス、の3つのテーマの中からゲストのご関心に合わせてお話いただきます。

2008/04/25 第16回

[ゲスト] 槍田松瑩 三井物産 社長 [テーマ] 『日本とブラジル』新しい100年が始まる”

2008/07/02 第17回

[ゲスト] 池田守男 資生堂 相談役 [テーマ] 社会総がかりの教育再生

2008/09/18 第18回

[ゲスト] 岡田克也 民主党 副代表 [テーマ] 政権交代～この国を変える～

2008/10/21 第19回

[ゲスト] 新浪 剛史 ローソン社長 [テーマ] 消費最前線の現状

2008/12/08 第20回

[ゲスト] 服部幸應 服部栄養専門学校校長・医学博士 [テーマ] 食育のすすめ—大切なものを失った日本人—

2009/01/29 第21回

[ゲスト] 小孫茂 日本経済新聞社 取締役東京本社編集局長 [テーマ] 2009年 読めない経済展望

2009/03/09 第22回

[ゲスト] 岡村正 東芝会長 [テーマ] 論語とそろばん

セミナー

2008/04/22

安全保障戦略としての M&A——日本経済発展のドライバーとして(工業倶楽部)

- ・ 開会挨拶 : 原良也(日本取締役協会副会長)
- ・ 特別講演: 新原浩朗(経済産業省 産業組織課長) 『経済戦略としてのM&A』
- ・ パネルディスカッション 『安全保障戦略としての M&A——日本経済発展のドライバーとして 』:
＜パネリスト＞江原伸好(ユニゾン・キャピタル 代表取締役パートナー)、落合誠一(中央大学法科大学院教授)、富山和彦(経営共創基盤 代表取締役 CEO)＜コーディネーター＞矢内裕幸(日本取締役協会専務理事)

2008/07/28

特別講演会 企業価値研究会の報告書の意味するもの

[講師] 神田秀樹 東京大学教授、企業価値研究会座長

[テーマ] 企業価値研究会の報告書の意味するもの◇取締役の行動規範◇情報開示のあり方◇政策論と過去の裁判例との関係

2008/09/11

特別講演会 長期投資家から見た日本企業

[講師] 新井亮一 JP モルガン・アセット・マネジメント JPM 運用本部長兼 CIO (チーフ・インベストメント・オフィサー)

[テーマ] JP モルガンの運用手法◇台頭する外人投資家◇欧米の企業統治と日本的経営◇資本政策の問題◇企業と投資家のコミュニケーションの改善に向けて

2008/10/08

特別講演会 取締役会議長、その役割を考えるーコニカミノルタホールディングスのコーポレートガバナンス

[講師] 植松富司 コニカミノルタホールディングス特別顧問

研修講座

★「経営幹部のためのコーポレート・ガバナンス研修講座」(全 6 回、12 講座)

コーポレート・ガバナンスの普及啓蒙に取り組む日本取締役協会では、企業経営に携わる経営幹部の皆さまに対して、コーポレート・ガバナンスの視点から、新しい経営に関する研修講座を 2002 年度から開設しました。本講座の狙いは、当協会会員である、日本を代表する経営トップから、企業理念、経営改革、マネジメントに期待されること、コーポレート・ガバナンスに関する考え方などをご指導いただきます。ご自身のネットワーク強化の場としてもご利用いただけます。

□2008 年 9 月 2 日～12 月 4 日 第 14 回講座 終了

協会外への PR 活動

発表・提言・出版

- 2008/03 「内部統制報告制度の準備状況」調査 (第 4 回) (内部統制研究会)
- 2008/06 内部統制報告制度への対応状況 調査 (第 5 回) (内部統制研究会)
- 2008/07 社外取締役についての調査 (2008 年) 調査結果
- 2008/08 上場企業と日本取締役協会会員企業との比較調査 (2008)
- 2008/10 内部統制報告制度への対応状況 調査 (第 6 回) (内部統制研究会)
- 2008/10 日本型 CEO の時間の使い方に関する調査 2008
- 2009/02 内部統制報告制度の対応状況 調査 (第 7 回)

記者会見など

2008/05/13 2008年度会員総会・会長記者会見 (帝国ホテル) 宮内義彦会長

他団体会合での講演など

2008/09/29 第42回 内部監査推進全国大会 (日本内部監査協会) @京王プラザ
宮内義彦会長 (記念講演”日本型”コーポレート・ガバナンスの確立に向けて)

2008/09/25～2008/12/11 駒澤大学 日本取締役協会寄附講座「トップマネジメント講座」

- 2008/09/25 荒蒔 康一郎 キリンホールディングス会長
- 2008/10/09 斎藤 博明 TAC社長
- 2008/10/23 弦間 明 資生堂 相談役
- 2008/11/13 松田 憲幸 ソースネクスト社長
- 2008/11/27 浦上 浩 リョービ会長
- 2008/12/11 野村 吉三郎 全日本空輸 最高顧問

他団体イベントへの名義協賛¹

2008/4/15 全国社外取締役ネットワーク発足5周年シンポジウム（主催：全国社外取締役ネットワーク）

2008/7/9 日本におけるM&A2008（主催：Economist conference）

2008/07/16～7/18 CSR/コンプライアンス・ソリューション2008（主催：日本経営協会）

2008/7/23 第6回青山学院「会計サミット」（主催：青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科）

2008/8/1 Strategic Innovation In A Flat World Conference（主催：Global business Intelligence）

2008/10/30 2008年度 IMA エグゼクティブ・シンポジウム「国際経営者が描く2050年 Part 2 — 提言と行動 —」（主催：国際経営者協会）

日本取締役協会について

上場企業の経営者を中心に、研究者、弁護士、会計士など専門家が集まり、世界に負けない経営をすることによって、日本経済を豊かなものにしようと、コーポレート・ガバナンスを中心に経営全般について勉強する集まりです。

[設立] 2002年3月13日。2002年4月1日に、有限責任中間法人格を取得。2009年1月21日 一般社団法人に移行。

[会長] 宮内 義彦（オリックス会長）

[主な編著] 「取締役の条件」（日経BP社 2002年）、「委員会等設置会社ガイドブック」（東洋経済新報社 2004年）、「江戸に学ぶ企業倫理」（生産性出版 2006年）、「監査委員会ガイドブック」（商事法務 2006年）、「明治に学ぶ企業倫理」（生産性出版 2008年）、「経営判断ケースブック」（商事法務 2008年）、「内部統制の責任と現状」（税務経理協会 2008年）

[会員数] 正会員 194名(160社)、個人会員 25名、専門会員 16名、研究会員 23名 計 258名(2009年1月現在)

〒105-6106 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル6階 電話 03-5425-2861

協会ホームページ<http://www.jacd.jp>

¹ 主に、会員のみなさまへの情報提供などのご協力をしています。(協賛金などの支払いはありません)